



DBMaster

dmSQL ユーザーガイド

CASEMaker Inc./Corporate Headquarters

1680 Civic Center Drive
Santa Clara, CA 95050, U.S.A.

Contact Information:

CASEMaker US Division

E-mail : info@casemaker.com

Europe Division

E-mail : casemaker.europe@casemaker.com

Asia Division

E-mail : casemaker.asia@casemaker.com(Taiwan)

E-mail : info@casemaker.co.jp(Japan)

www.casemaker.com

www.casemaker.com/support

©Copyright 1995-2008 by Syscom Computer Engineering Co.

Document No. 645049-231222/DBM50J-M01312008-dmSQ

発行日:2008-01-31

ALL RIGHTS RESERVED.

本書の一部または全部を無断で、再出版、情報検索システムへ保存、その他の形式へ転作することは禁止されています。

本文には記されていない新しい機能についての説明は、CASEMakerのDBMasterをインストールしてからREADME.TXTを読んでください。

登録商標

CASEMaker、CASEMakerのロゴは、CASEMaker社の商標または登録商標です。

DBMasterは、Syscom Computer Engineering社の商標または登録商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NTは、Microsoft社の商標または登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの商標または登録商標です。

ANSIは、American National Standards Institute, Incの商標または登録商標です。

ここで使用されているその他の製品名は、その所有者の商標または登録商標で、情報として記述しているだけです。SQLは、工業用語であって、いかなる企業、企業集団、組織、組織集団の所有物でもありません。

注意事項

本書で記述されるソフトウェアは、ソフトウェアと共に提供される使用許諾書に基づきます。

保証については、ご利用の販売店にお問い合わせ下さい。販売店は、特定用途への本コンピュータ製品の商品性や適合性について、代表または保証しません。販売店は、突然の衝撃、過度の熱、冷気、湿度等の外的要因による本コンピュータ製品へ生じたいかなる損害に対しても責任を負いません。不正な電圧や不適合なハードウェアやソフトウェアによってもたらされた損失や損害も同様です。

本書の記載情報は、その内容について十分精査していますが、その誤りについて責任を負うものではありません。本書は、事前の通知無く変更することがあります。

目次

1	はじめに	1-1
1.1	その他のマニュアル.....	1-3
1.2	字体の規則	1-4
2	dmSQLについて.....	2-1
	タイトル・バー	2-2
	メニュー・バー	2-2
	ツール・バー	2-2
	コマンド入力エリア	2-3
	ステータス・バー	2-4
3	dmSQLの操作	3-1
3.1	データベースの操作.....	3-1
	データベースに接続する	3-2
	データベースを切断する	3-2
	データベースを全て切断する	3-3
	接続を表示する	3-3
	スクリプトを実行する	3-3
	トランザクションをコミットする	3-4
	トランザクションをロールバックする	3-5

	コマンドを中止する	3-5
	フェッチを中止する	3-5
	スクリプトを中止する	3-6
	表の一覧	3-6
	コマンド履歴を閲覧する	3-6
3.2	テキストの編集	3-8
	切り取り	3-8
	コピー	3-8
	貼り付け	3-8
	削除	3-9
	編集を元に戻す	3-9
	全てのテキストを選択	3-9
	全てのテキストを削除	3-10
3.3	コマンド入力エリアのユーザー設定	3-10
	高速検索機能を使う	3-10
	表示フォントを変更する	3-10
	表示カラー	3-12
	バックグラウンド通知	3-15
3.4	環境変数を設定する	3-16
	自動コミット	3-17
	トランザクション末尾	3-18
	ログイン・タイムアウト	3-18
	ロック・タイムアウト	3-19
	フェッチ	3-19
	ライン幅	3-20
	BLOBの表示	3-21
	履歴	3-22
	ファイル出力	3-22
	エコー	3-23
	ワーキング・ディレクトリ	3-23

日付と時間のフォーマット	3-24
設定を表示する	3-26
設定を保存する	3-26
3.5 高度な設定コマンド.....	3-26
バックアップのモードを設定する	3-26
BLOBバックアップのモードを設定する	3-27
ブラウズのモードを設定する	3-27
データのバックアップ・モードを設定する	3-27
データベース・モードを設定する	3-27
拡張子名‘your_own_extension_name’を設定する	3-27
フラッシュを設定する	3-28
SYSINFOクリアを設定する	3-28
4 メニューとツール・バー	4-1
4.1 プルダウン・メニュー・コマンド.....	4-1
データベース・メニュー	4-1
編集メニュー	4-3
コマンド・メニュー	4-4
表示メニュー	4-5
設定メニュー	4-5
ヘルプ・メニュー	4-7
4.2 ツール・バー・コマンド	4-8
索引	索引-1

1 はじめに

dmSQLユーザズガイドへようこそ。DBMasterは、強力かつ柔軟なSQLデータベース管理システム（DBMS）です。会話型構造の問い合わせ言語（SQL）、Microsoftのオープンデータベース結合（ODBC）互換インターフェース、およびC言語対応組込みSQL（ESQL/C）をサポートします。唯一の公開アーキテクチャであるODBCインターフェースは、多種多様なプログラミングツールを使用して顧客アプリケーションを構築し、既存のODBC適合アプリケーションを用いてデータベースに問い合わせることを可能にします。

DBMasterは、単一ユーザーの個人データベースから、企業全体に分散するデータベースまでに容易にスケール化することができます。どのようなデータベース構成を選択しても、重要データの安全性は、DBMasterのセキュリティ、整合性、信頼性の先進的機能によって確実に保証されます。広範なクロス-プラットフォームのサポートは、現在あるハードウェアの性能を高め、需要の変化に応じてより強力なハードウェアに拡大し、グレードアップすることを可能にします。

DBMasterは、優れたマルチメディア処理機能を提供し、あらゆるタイプのマルチメディアデータの保存、検索、操作を可能にします。バイナリラージオブジェクト（BLOB）は、DBMasterの先進的セキュリティと損傷リカバリ機構を全面的に利用して、マルチメディアデータの整合性を確実にします。ファイルオブジェクト（FO）は、マルチメディアデータを管理する一方で、既存のアプリケーションで各ファイルを編集できる機能を保持します。

本書は、dmSQLの基本操作を中心に、データベースの管理方法を説明します。対象者は、DBMasterのデータベース設計者と管理者です。リレーショ

ナル・データベースについての多少の理解があるものの、DBMasterに不慣れなユーザーにとって、多いに役立つものと思います。ユーザーは、WindowsやUNIX環境のオペレーティング・システムに関する若干の知識が必要です。一方、経験豊かなユーザーにもご利用頂けます。

本書は、dmSQLでデータベースを保守する際に使う様々なコマンドとプロシージャを説明します。本書は、Windows NTとWindows 98環境対応のDBMaster用に作成されていますが、UNIXプラットフォーム上でもすべての関数を実行することができます。全編を通じてサンプル・データベースのスクリーン・ショットを掲載して、よりわかりやすく説明します。

1.1 その他のマニュアル

DBMasterには、本マニュアル以外にも多くのユーザーガイドや参照編があります。特定のテーマについての詳細は、以下の書籍を参照して下さい。

- DBMasterの能力と機能性についての概要は、「DBMaster入門編」を参照して下さい。
- DBMasterの設計、管理、保守についての詳細は、「データベース管理者参照編」をご覧ください。
- DBMasterの管理についての詳細は、「JServer Managerユーザーガイド」を参照して下さい。
- DBMasterの環境設定についての詳細は、「JConfiguration Tool参照編」をご覧ください。
- DBMasterの機能についての詳細は、「JDBA Toolユーザーガイド」を参照して下さい。
- DBMasterで採用しているSQL言語についての詳細は、「SQL文と関数参照編」を参照して下さい。
- ESQLプログラムについての詳細は、「ESQL/Cプログラマー参照編」をご覧ください。
- ODBCプログラムについての詳細は、「ODBCプログラマー参照編」をご覧ください。
- エラーと警告メッセージについての詳細は、「エラー・メッセージ参照編」をご覧ください。
- ネイティブDCI APIについての詳細は、「DCI ユーザーガイド」を参照して下さい。

1.2 字体の規則

本書は、標準の字体規則を使用しているのので、簡単かつ明確に読むことができます。

斜体	斜体は、ユーザー名や表名のような特定の情報を表します。斜体の文字そのものを入力せず、実際に使用する名前をそこに置き換えてください。斜体は、新しく登場した用語や文字を強調する場合にも使用します。
太字	太字は、ファイル名、データベース名、表名、カラム名、関数名やその他同様なケースに使用します。操作の手順においてメニューのコマンドを強調する場合にも、使用します。
キーワード	文中で使用するSQL言語のキーワードは、すべて英大文字で表現します。
小さい 英大文字	小さい英大文字は、キーボードのキーを示します。2つのキー間のプラス記号(+)は、最初のキーを押したまま次のキーを押すことを示します。キーの間のコンマ(,)は、最初のキーを放してから次のキーを押すことを示します。
注	重要な情報を意味します。
☞ プロシージャ	一連の手順や連続的な事項を表します。ほとんどの作業は、この書式で解説されます。ユーザーが行う論理的な処理の順序です。
☞ 例	解説をよりわかりやすくするために与えられる例です。一般的に画面に表示されるテキストと共に表示されます。
コマンドライン	画面に表示されるテキストを意味します。この書式は、一般的にdmSQLコマンドやdmconfig.iniファイルの内容の入/出力を表示します。

2 dmSQLについて

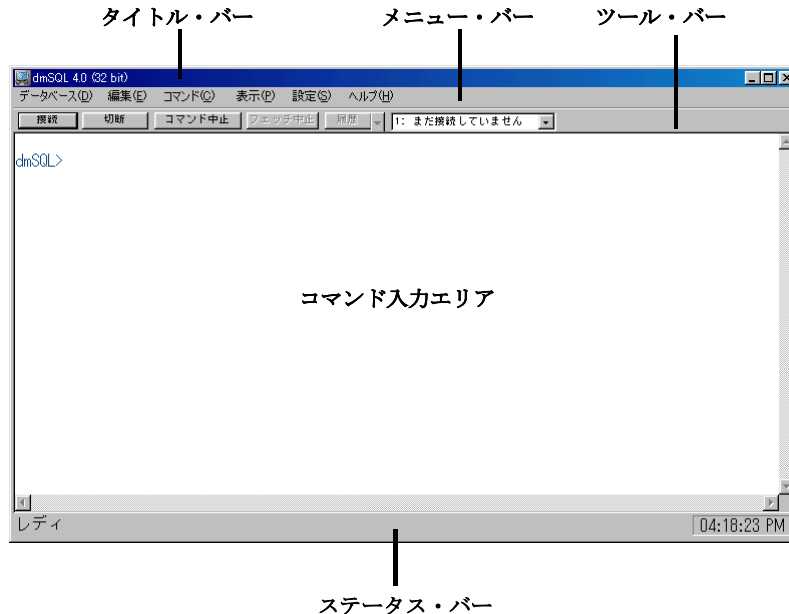
この章は、dmSQLの作業スペースのレイアウトと、その数々のコンポーネントについての一般的な情報を解説します。

本書は、dmSQLのWIN32版のために作成しました。UNIXバージョンとの違いはGUIのみです。dmSQLのUNIXバージョンはコマンドラインで駆動します。適切なコマンドライン入力を行うために、本書の“コマンド構文”を参照して下さい。全てのコマンドラインは、dmSQLのWIN32でもUNIXバージョンでも使用することができます。

次の図は、作業スペースの機能を表しています。使用前に、プログラム操作についての理解を深めることをお勧めします。

メニュー・バーの【表示】には、作業スペースに表示する要素を変更することができます。以下の要素を表示、非表示にすることができます。

- 水平スクロールバー
- 垂直スクロールバー
- ツールバー
- ステータスバー



dmSQL作業スペースの各機能については以下で説明します。

タイトル・バー

タイトル・バーには、プログラム名”dmSQL”、最小化、最大化、閉じるのボタンが表示されています。

メニュー・バー

メニュー・バーには、dmSQLのプルダウン・メニューのタイトルが表示されています。各メニューには、関連するコマンドの一覧があります。

ツール・バー

ツール・バーは、コマンドボタンと一般によく使用する関数のドロップダウン・リストボックスのパレットです。

表示メニューのツール・バーで、表示するかどうかを選択することができます。

コマンド入力エリア

コマンド入力エリアは、dmSQL作業スペースのメイン・ウインドウです。コマンド入力、スクリプト実行、テキスト表示に使用します。

コマンドライン・ヘルプ

コマンド入力エリアで以下のコマンドを入力すると、全てのSQLとdmSQL文の構文の情報を表示させることができます。

例

命令文「insert」で始まる全てのヘルプ入力タイトルを表示する:

```
dmSQL> help insert;
<[INSERT-STATEMENT]>

    insert-statement ::=

        INSERT INTO remote-table-name [(column-identifier[,column-
identifier]...)]

            { VALUES (insert-value[,insert-value]...)
              | DEFAULT VALUES
              | select-order-by-statement }

<(insert-value)>

    insert-value ::=

        dynamic-parameter
        |literal
        |NULL
        |expression

<[INSERT]>

    INSERT(String string exp1, INT start, INT length, String string exp2)

    Returns a character string where length characters have been
    deleted from string_exp1 beginning at start and where string_exp2
```

```
has been inserted into string exp1, beginning at start  
comment: if string_exp1 is NULL return NULL  
if start, length or string_exp2 is NULL return string_exp1  
if start <= 0 or length < 0 return string_exp1
```

ステータス・バー

ステータス・バーは、作業スペースの現在の活動と現在時間を表示します。

表示メニューのステータス・バーで、表示するかどうかを指定することができます。

3 dmSQLの操作

この章では、下記のdmSQL関数について解説します。

- データベースの操作
- テキストの編集
- コマンド入力エリアの設定
- 環境変数
- 高度な設定コマンド

3.1 データベースの操作

この節は、以下のトピックを含む、データベースへの接続と切断について説明します。

- 接続のチェック
- スクリプトの実行
- トランザクションのコミット
- トランザクションのロールバック
- コマンドの中止
- フェッチの中止
- スクリプトの中止
- 表の一覧

- コマンド履歴のレビュー

データベースに接続する

ローカルPCのシングルユーザー・データベース、あるいはリモートPCで運用しているクライアント/サーバー・データベースへ接続します。

② データベースへ接続する:

1. [データベース] メニューから[接続]を選んでください。
2. [接続] ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. [データベース] のリストボックスから、接続するデータベースを選択して下さい。
4. [ユーザー名] の欄に、ユーザー名を入力してください。
5. [パスワード] の欄に、パスワードを入力してください。
6. 設定を保存する場合は、[ユーザー名の保存] をクリックして下さい。
7. [ログイン] をクリックして、データベースに接続して下さい。
8. 次のコマンド構文が表示されます：

```
connect to db_name user_name password ;
```

データベースを切断する

このコマンドは、シングル・データベースとの接続を切断する時に使います。

☞ データベースとの接続を切断する:

1. [データベース] メニューから [切断] を選んでください。
2. 次のコマンド構文が表示されます:

```
disconnect ;
```

データベースを全て切断する

このコマンドはアクティブ・データベースとの接続を切断するために使われます。

☞ すべてのアクティブ・データベースを切断する:

1. [データベース] メニューから、[全て切断] を選んでください。
2. 次のコマンド構文が表示されます:

```
disconnect all ;
```

接続を表示する

現在のセッションの全接続のリストを見ます。

☞ 接続を表示する:

1. [データベース] メニューから、[接続の表示] を選択してください。
2. 現在のセッションの全接続リストが、コマンド入力エリアに表示されます。
3. 次のコマンド構文が表示されます:

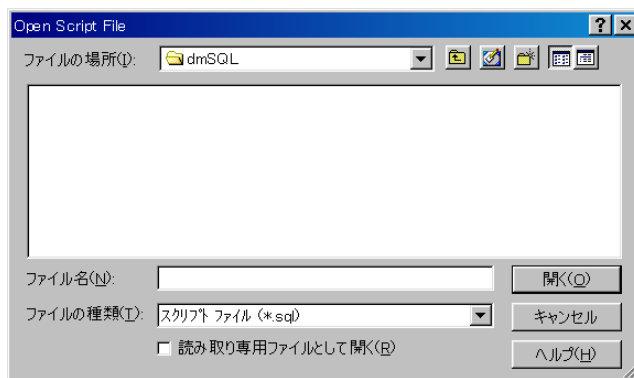
```
use ;
```

スクリプトを実行する

スクリプトは、SQLコマンドから成るテキスト・ファイルです。

☞ スクリプトを実行する:

1. [データベース] メニューに、[スクリプトの実行] を選んでください。
2. [Open Script File] ダイアログボックスが表示されます。



3. スクリプト・ファイルを選択して、[開く] をクリックしてください。
4. 次のコマンド構文が表示されます:

```
run 'script_file_name' ;
```

トランザクションをコミットする

随時、現在のトランザクションの内容をコミットすることができます。

注: 自動コミットがONの場合、このコマンドは無視されます。

☞ トランザクションをコミットする:

1. [データベース] メニューから、[コミット] を選んでください。
2. 現在の全トランザクションのコミットされていないコマンドが、コミットされます。
3. 次のコマンド構文が表示されます:

```
commit ;
```

トランザクションをロールバックする

コミットされていない全コマンドを取り消すことができます。

☞ トランザクションをロールバックする：

1. [データベース] メニューから、[ロールバック] を選んでください。
2. コミットされていない全コマンドは、キャンセルされます。
3. 次のコマンド構文が表示されます：

```
rollback ;
```

コマンドを中止する

実行中の全コマンドを中止することができます。

☞ コマンドを中止する：

1. [コマンド] メニューから、[コマンド中止] を選択してください。
2. 現在のコマンドは実行を中止し、新しいコマンドラインが始まります。

注: 現在のコマンドがフェッチ、又はスクリプトの実行の場合、コマンド中止は利用できません。代わりにフェッチ中止、若しくはスクリプト中止コマンドを使ってください。

フェッチを中止する

実行中の全フェッチ・コマンドを中止することができます。

☞ フェッチ・コマンドを中止する：

1. [コマンド] メニューから、[フェッチ中止] を選択してください。
2. 現在のフェッチ・コマンドは、実行を中止します。

3. 新しいコマンドラインが始まります。

スクリプトを中止する

スクリプトの実行を、実行中に中止することができます。

☞ 実行中の全スクリプトを中止する:

1. [コマンド] メニューから、[スクリプトの中止] を選んでください。
2. 現在のスクリプトの実行コマンドは、実行を中止します。
3. 新しいコマンドを実行始まります。

表の一覧

データベースにあるすべての表の一覧を見ることができます。

☞ 表をリストにする:

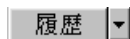
1. [コマンド] メニューから、[テーブル一覧] を選んでください。
2. アクティブ・データベースにある全ての表の一覧が表示されます。

コマンド履歴を閲覧する

現在のセッションで作成した全コマンドを、2種類のレベルで見直します。

- 履歴スピードメニューは、コマンド簡略リストを表示します。
- コマンド履歴ダイアログ・ボックスには、完全な形式のコマンドがリストアップされます。

コマンドを選択すると、どちらの一覧からでもコマンドの位置に移動することができます。ツール・バーの履歴コントロールから、2種類の一覧を見ることができます。



➡ 履歴スピードメニューを見る：

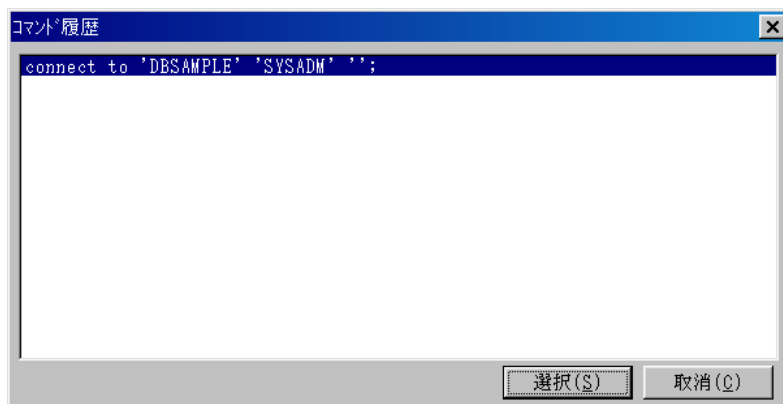
1. 履歴コントロールの下向き矢印ボタン(▼)をクリックして下さい。
2. 履歴スピードメニューが表示されます。



3. コマンドを選択して下さい。
4. スピードメニューが消えて、カーソルは選択したコマンドに点滅します。

➡ コマンド履歴ダイアログボックスを閲覧する：

1. 履歴コントロールの「履歴」ボタンをクリックして下さい。
2. 「コマンド履歴」ダイアログボックスが表示されます。



3. コマンドを選択して下さい。
4. 「選択」をクリックしてください。
5. ダイアログボックスが消えて、カーソルはコマンド入力エリアの選択したコマンドに点滅します。
6. 次のコマンド構文が表示されます：

```
history ;
```

3.2 テキストの編集

dmSQLの便利な編集機能を使って、アクティブ・コマンドラインのテキストを編集します。

切り取り

クリップボードに選択したテキストを移動させます。

➡ カット(切り取り)する:

1. カットするテキストを選択して下さい。
2. **【編集】**メニューから、**【切り取り】**を選択してください。
3. 選択したテキストは、クリップボードに移動します。

コピー

クリップボードに選択したテキストをコピーします。

➡ コピーする:

1. コピーするテキストを選択してください。
2. **【編集】**メニューから、**【コピー】**を選択してください。
3. 選択したテキストは、クリップボードにコピーされます。

貼り付け

クリップボードから選択したテキストを貼り付けます。

注: 貼り付けコマンドは、コピー、切り取りしたテキストが無い場合、使用することができません。

☞ 貼り付ける:

1. テキストを貼り付ける場所に、カーソルを移してください。
2. **【編集】**メニューから、**【貼り付け】**を選択してください。
3. クリップボードからテキストが貼り付けられます。

注: 現在のコマンドラインで右クリックしても、テキストを貼り付けることができます。dmSQL コマンド入力エリアでテキストを選択していない場合は、クリップボードの内容が現在のコマンドラインに貼り付けられます。

削除

選択したテキストを変更するために、アクティブ・コマンドラインを削除します。

☞ 削除する:

1. 削除するテキストを選んでください。
2. **【編集】**メニューから、**【削除】**を選択してください。

編集を元に戻す

【元に戻す】を使って、最新のコマンド編集を元に戻すことができます。

☞ 編集を元に戻す:

1. **【編集】**メニューから、**【元に戻す】**を選択してください。
2. アクティブ・コマンドラインで実行された最新の編集は、取り消されます。

全てのテキストを選択

アクティブ・コマンドラインの全テキストを選択します。

⇒ 全テキストを選択する：

1. [編集] メニューから、[全て選択] を選択してください。
2. アクティブ・コマンドラインの全テキストが選択されます。

全てのテキストを削除

[全てクリア] コマンドは、アクティブ・コマンドラインのテキストを除く、コマンド入力エリアの全内容を削除します。

⇒ 非アクティブ・コマンドラインの全テキストを削除する：

1. [編集] メニューから、[全てクリア] を選択してください。
2. 非アクティブ・コマンドラインの全テキストが削除されます。

3.3 コマンド入力エリアのユーザー設定

dmSQLコマンド入力エリアに表示内容をカスタマイズすることができます。

高速検索機能を使う

dmSQLの高速検索機能を使わない場合、スクリプトを実行しデータを検索しているスクリーン出力関数の結果は、dmSQLの処理中にコマンド入力エリアに表示されます。

⇒ 高速検索機能を使う：

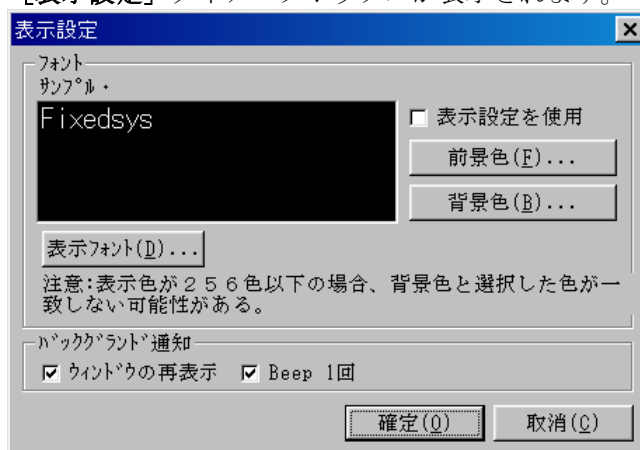
1. [表示] メニューから、[高速処理] を選んでください。
2. 機能が利用可能になります。

表示フォントを変更する

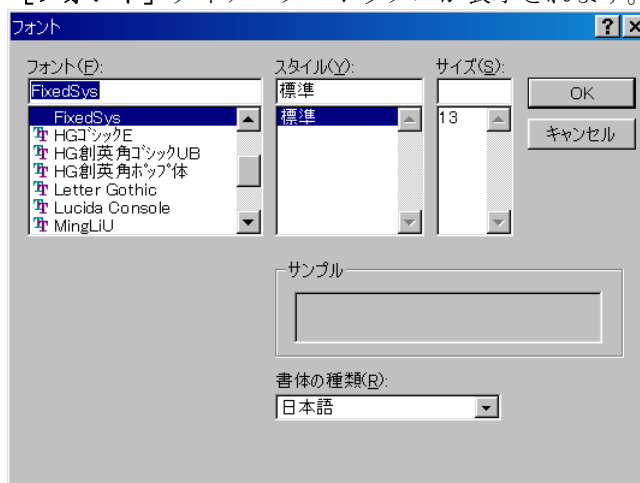
dmSQLコマンド入力エリアのテキストに、ほとんどの標準フォントを利用することができます。

② 表示フォントを変更する：

1. [表示] メニューから、[ユーザー設定] を選択してください。
2. [表示設定] ダイアログボックスが表示されます。



3. [表示フォント] ボタンをクリックしてください。
4. [フォント] ダイアログ・ボックスが表示されます。



- a) [フォント] の欄から、フォントを選択してください。

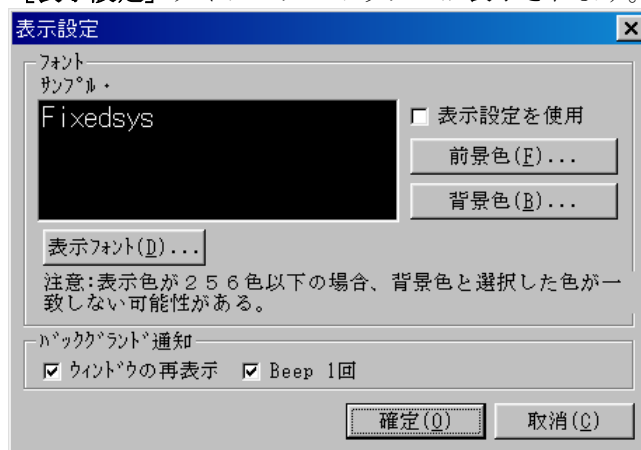
- b) [スタイル] の欄から、スタイルを選択してください。
 - c) [サイズ] の欄から、数値を選択するか、入力してください。
 - d) 数種の言語をサポートする場合、[書体の種類] の欄から、書体を選択してください。
 - e) [サンプル] の欄で、選択したフォントをチェックしてください。
5. 選択したフォントを確定する場合は、[OK] をクリックして下さい。

表示カラー

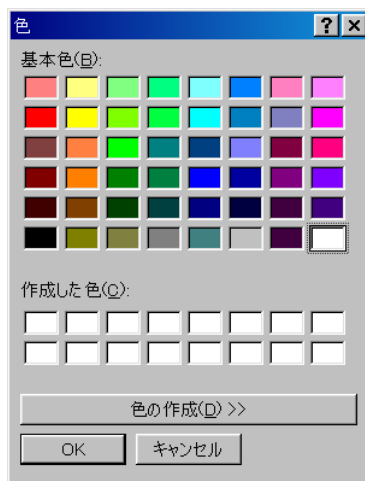
dmSQLコマンド入力エリアのテキストと背景に、ほとんどの標準的な色を利用することができます。

☉ テキストの色を変更する：

1. [表示] メニューから、[ユーザー設定] を選択してください。
2. [表示設定] ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. [前景色] をクリックして下さい。
4. [色] ダイアログ・ボックスが表示されます。



5. 「基本色」パレットから色を選択、又は「色の作成」をクリックして下さい。「色」ダイアログボックスが拡張します。



6. 置き換える「作成した色」、又は空の「作成した色」の欄を選択して下さい。
7. 大きいカラー表示ウインドウのカラーの範囲に、十字記号をドラッグしてください。

8. 小さい [色|純色] ウィンドウに、選択した色が表示されます。
9. 大きいカラー表示の横の明度バーのスライダをドラッグして、選択した [作成した色] の明度を設定して下さい。
10. [色の追加] をクリックして、色の設定を保存して下さい。
11. [作成した色] の欄に、色の最終設定が表示されます。
12. [OK] をクリックしてください。

☞ 背景カラーを変更する：

1. [表示] メニューから、[ユーザー設定] を選択してください。
2. [表示設定] ダイアログ・ボックスが表示されます。
3. [背景色] をクリックして下さい。
4. [色] ダイアログ・ボックスが表示されます。
5. [基本色] パレットから色を選択、又は [色の作成] をクリックして下さい。
6. [色] ダイアログボックスが拡張します。
7. 置き換える [作成した色]、又は空の [作成した色] の欄を選択して下さい。
8. 大きいカラー表示ウィンドウのカラーの範囲に、十字記号をドラッグしてください。
9. 小さい [色|純色] ウィンドウに、選択した色が表示されます。
10. 大きいカラー表示の横の明度バーのスライダをドラッグして、選択した作成した色の明度を設定して下さい。
11. [色の追加] をクリックして、色の設定を保存して下さい。
12. [作成した色] の欄に、色の最終設定が表示されます。
13. [OK] をクリックしてください。

バックグラウンド通知

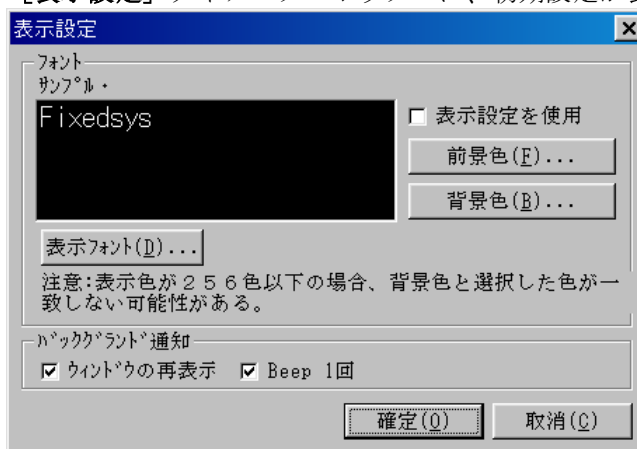
dmSQLが長い時間を要するかもしれないスクリーン出力機能を実行している時に、別の作業を行う場合、dmSQL作業スペースを最小化し、その作業が完了したことを知らせる、バックグラウンド通知を使用することができます。

その機能の初期設定には、警告音と視覚フラッシュ・ウインドウがあります。

注: バックグラウンド通知を作動させるために、dmSQL ウィンドウを最小化して下さい。dmSQLのウィンドウが他のウィンドウの後ろに隠れる場合や、最小化されていない場合は、通知は行われません。

☞ バックグラウンド通知を変更する：

1. [表示] メニューから、[ユーザー設定] を選択してください。
2. [表示設定] ダイアログ・ボックスに、初期設定が表示されます。



3. 希望しないバックグラウンド通知の設定をOFFにしてください。
 - a) 音声の通知だけを希望する場合は、[画面の再表示] チェックボックスをOFFにしてください。

- b) 視覚の通知だけを希望する場合は、[ビープ1回] チェックボックスをOFFにしてください。
- c) 通知を望まない場合は、[画面の再表示] と [ビープ1回] 両方のチェックボックスをOFFにしてください。

4. [OK] をクリックしてください。

3.4 環境変数を設定する

dmSQLのコマンド動作の多くが、環境変数によってコントロールされています。設定メニューのコマンドを使って、これらの変数を設定します。以下のリストは変数の種類とその初期設定を説明します。

環境変数	影響	初期設定
自動コミット	自動的に全トランザクションをコミットします。	ON
トランザクション末尾	アプリケーションを終了する時、の最後のトランザクションのdmSQL操作を決定します。 注：自動コミットがONの場合は無視されます。	アスク
ログインタイムアウト	dmSQLがデータベースにログインを試みる時間。	5 秒
ロックタイムアウト	dmSQLがロックされたデータベースオブジェクトにアクセスを試みる時間	5 秒
フェッチ	dmSQLがフェッチ・コマンドでデータベースから検索する行数	すべて

ライン幅	各行が含む文字数をセット、又はオフに設定します。オフに設定すると、コマンド入力エリアにライン幅の制限がなくなりなります。	80
BLOB	BLOBを検索、表示する条件。	表示/印刷 幅/16バイト
履歴	実行済みコマンドや、dmrecord.sql ファイル・エラーの為に失敗したコマンドを自動的に記録します。	ON
ファイル出力	全dmSQL出力を自動的に選択したテキスト・ファイルに出力するようにします。	OFF
エコー	結果の表示、又はコマンドとその結果を表示します。	ON
WorkDir	外部のファイル操作作用のワークディレクトリ。	C:\DBMaster\BIN32
日付	入力と出力の日付フォーマットをセットします。	入力: mm/dd/yy 出力: yyyy-mm-dd
時間	入力と出力の時間フォーマットをセットします。	入力: hh:mm:ss.fff 出力: hh:mm:ss

自動コミット

dmSQLに自動的に全トランザクションをコミットするようにセットします。

☞ 自動コミットにする：

〔設定〕メニューの〔自動コミット〕を〔ON〕にして下さい。

トランザクション末尾

トランザクション末尾を設定して、終了コマンドへのdmSQLの対応を決定します。

注： 自動コミットをセットした場合、この設定は無視されます。

☞ トランザクションの末尾を設定する：

〔設定〕メニューから、〔トランザクション末尾〕を選んでください。

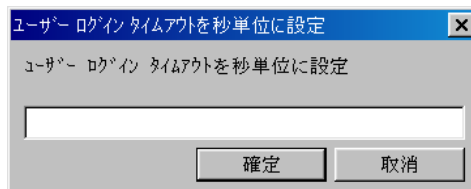
サブメニュー コマンド	終了コマンドへのdmSQLの処理
アボート	現在のトランザクションは、アプリケーション終了前に、自動的にアボートされます。
コミット	現在のトランザクションは、アプリケーション終了前に、自動的にコミットされます。
アスク	現在のコマンドラインにプロンプトが表示されます。アボートする場合は“A”、コミットする場合は“C”を入力します。

ログイン・タイムアウト

dmSQLがデータベースにログインを試みる時間を設定します。

☞ ログイン・タイムアウトを設定する：

1. 〔設定〕メニューから、〔ログイン・タイムアウト〕を選んでください。
2. ダイアログボックスが表示されます。



3. タイムアウト時間（秒数）を入力して下さい。
4. [OK] をクリックして下さい。

ロック・タイムアウト

ロックされているデータベース・オブジェクトに、dmSQLがアクセスを試みる時間を設定します。

☞ ロック・タイムアウトを設定する:

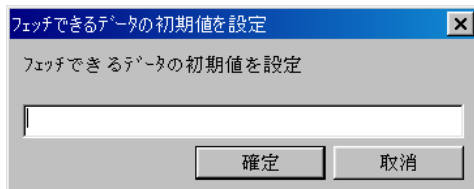
1. [設定] メニューから、[ロック・タイムアウト] を選んで下さい。
2. ダイアログボックスが表示されます。
3. タイムアウト時間（秒数）を入力して下さい。
4. [OK] をクリックして下さい。

フェッチ

フェッチ・コマンド実行中に、dmSQLがデータベースから検索する行数を設定します。初期設定では、データベースにある全ての行が検索されます。

☞ 一フェッチ当たりのタプル数を設定する:

1. [設定] メニューの [フェッチ] から、[その他] を選択して下さい。
2. ダイアログボックスが表示されます。



3. 各フェッチ・コマンド実行で検索する行数の初期設定値を入力して下さい。
4. [OK] をクリックして下さい。

ライン幅

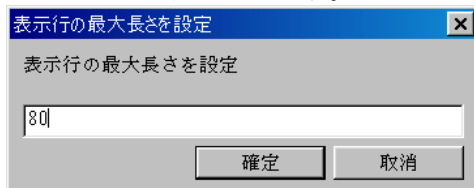
dmSQLのコマンド入力エリアの初期設定の行幅は、80文字です。表示ラインの幅を設定するか、設定をオフにしてください。設定をオフにすると、コマンド入力エリアの幅は、無制限になります。

☞ ライン幅を設定しない:

[設定] メニューの [ライン幅] から、[OFF] を選んで下さい。

☞ ライン幅を変更する:

1. [設定] メニューの [ライン幅] から、[その他] を選んで下さい。
2. ダイアログが表示されます。



3. 表示行の最大長さを入力して下さい。
4. [OK] をクリックして下さい。

BLOBの表示

SELECT文にBLOBが含まれる場合、表示オプションを選択します。

☞ BLOBのサイズの表示する:

1. [設定] メニューの [BLOB] -> [表示] から [サイズ] を選択して下さい。
2. 次のようなコマンド構文が表示されます。

```
set blobshow size ;
```

☞ BLOBをファイルに保存する:

1. [設定] メニューの [BLOB] の [表示] から [ファイル] を選択して下さい。
2. 出力のファイル名の接頭語を設定する場合は、[設定] メニューの [BLOB] から、[Pref] を選択して下さい。
3. 出力ファイルの最大数を設定する場合は、[設定] メニューの [BLOB] から、[Rowmax] を選択して下さい
4. 次のようなコマンド構文が表示されます:

```
set blobshow file ;  
set blobpref 'your_prefix' ;  
set blobrowmax max_number ;
```

☞ 作業スペースにあるBLOBコンテンツを直接表示する:

1. [設定] メニューの [BLOB] の [表示] から、[印刷] を選択して下さい。
2. [設定] メニューの [BLOB] から、[幅] を選択して下さい。
3. 次のようなコマンド構文が表示されます。

```
set blobshow print ;  
set blobwidth max_number ;
```

履歴

履歴機能をONにすると、dmSQLは自動的に実行済みのコマンドと **dmrecord.sql**ファイル・エラーのために失敗したコマンドを記録します。このファイルは、スクリプトとして使用されます。

注: 履歴の初期設定は、OFFです。

➤ 履歴を使う:

1. [設定] メニューの [履歴] から、[ON] を選択して下さい。
2. 次のようなコマンド構文が表示されます。

```
set fltrec on;
```

注: **dmrecord.sql**ファイルの完全パスは、履歴サブメニューの“オン”の傍に表示されます。

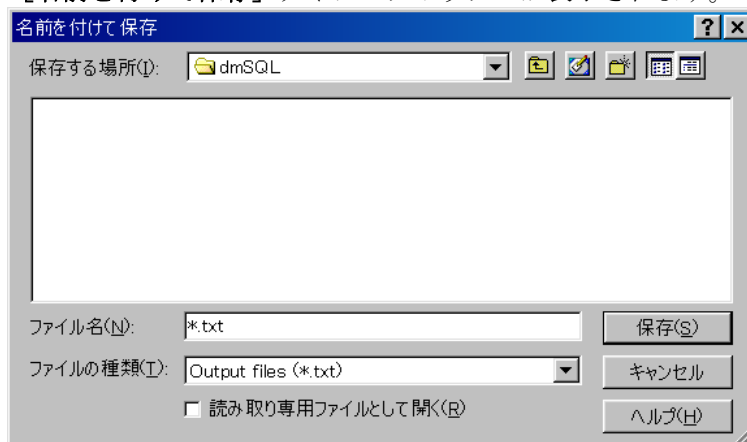
ファイル出力

dmSQLは初期設定により、全出力を画面に表示します。dmSQLに選択したテキスト・ファイルに自動的に出力させることも可能です。初期設定では、ファイル出力機能はOFFです。

➤ 出力先を設定する:

1. [設定] メニューの [ファイル出力] から、[ファイル名] を選択して下さい。

2. [名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ファイル名の欄] に、出力するファイルの名前を入力して下さい。
4. [保存] をクリックして下さい。

エコー

エコーは、コマンドの結果を表示、もしくはコマンドとその結果両方を表示します。

☞ エコーを使う:

1. [設定] メニューの [エコー] から、[ON] を選択して下さい。
2. 次のようなコマンド構文が表示されます。

```
set echo on;
```

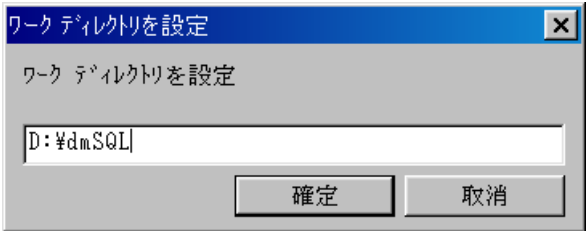
ワーキング・ディレクトリ

全ての外部ファイル操作を保存するディレクトリを指定します。

☞ ワーキング・ディレクトリを設定する:

1. [設定] メニューから、[WorkDir] を選択して下さい。

2. ダイアログが表示されます。



3. ディレクトリのパスを入力して下さい。
4. [OK] をクリックして下さい。

日付と時間のフォーマット

入力と出力用に、適切な日付/時間フォーマットを設定することは重要なことです。これらのフォーマットが設定されていない場合、dmSQLは、データ入力やフェッチ・コマンドを認識しない可能性があります。次のようなフォーマットを利用することができます。(where m =月数、 mon =月、 d =日、 y =年、 h =時間、 m =分、 s =秒、 f =マイクロ秒、 t =am/pm):

日付	時間
mm/dd/yy	hh:mm:ss.fff
mm-dd-yy	hh:mm:ss
dd/mon/yy	hh:mm
mm/dd/yyyy	hh
mm-dd-yyyy	hh:mm:ss.fff tt
yyyy/mm/dd	hh:mm:ss tt
yyyy-mm-dd	hh:mm tt
dd-mon-yyyy	hh tt
dd.mm.yyyy	tt hh:mm:ss.fff
dd.mm.yyyy	tt hh:mm:ss
dd.mm.yyyy	tt hh:mm
dd.mm.yyyy	tt hh

注: 入力フォーマットと出力フォーマットで、異なるフォーマットを使用することができます。

☞ 日付入力フォーマットを設定する:

1. [設定] メニューの [日付] から、[入力形式] を選択して下さい。
2. サブメニューが表示されます。
3. [日付] フォーマットを選択して下さい。

注: 全てのフォーマットを受け入れる場合は、[すべて] を選択して下さい。

☞ 日付出力フォーマットを設定する:

1. [設定] メニューの [日付] から、[出力形式] を選択して下さい。
2. サブメニューが表示されます。
3. [日付] フォーマットを選択して下さい

☞ 時間入力フォーマットを設定する:

1. [設定] メニューの [時間] から、[入力形式] を選択して下さい。
2. サブメニューが表示されます。
3. [時間] のフォーマットを選択して下さい。

注: 全てのフォーマットを受け入れる場合は、[すべて] を選択して下さい。

☞ 時間出力フォーマットを設定する:

1. [設定] メニューの [時間] から、[出力形式] を選択して下さい。

2. サブメニューが表示されます。
3. [時間] のフォーマットを選択して下さい。

設定を表示する

現在の環境変数の全設定を表示します。

☞ 設定を表示する:

1. [設定] メニューから、[設定の表示] を選択して下さい。
2. 環境変数の全設定のリストが、[コマンド入力エリア] に表示されます。

設定を保存する

将来の参照用に、環境変数の設定を保存します。

☞ 設定を保存する:

1. [設定] メニューから、[設定の保存] を選択して下さい。
2. この設定は、Windowsのホームディレクトリの *dmsqlenv.ini* ファイルに保存されます。

3.5 高度な設定コマンド

この節では、dmSQLのより高度な設定コマンドについて解説します。

バックアップのモードを設定する

データベースのバックアップ・モードを **On**、又は **Off** に設定します。

```
dmSQL> SET DATA BACKUP ON;
```

```
dmSQL> SET BACKUP OFF;
```

BLOBバックアップのモードを設定する

バックアップ実行時の、BLOBデータのバックアップ・モードを**On**、又は**Off**にします。

```
dmSQL> SET BLOB BACKUP ON;  
dmSQL> SET BACKUP OFF;
```

ブラウズのモードを設定する

ブラウズ・モードを**On**、又は**Off**に設定します。

```
dmSQL> SET BROWSE ON;  
dmSQL> SET BROWSE OFF;
```

データのバックアップ・モードを設定する

バックアップ実行時のデータのバックアップを**On**、又は**Off**にします。

```
dmSQL> SET DATA BACKUP ON;  
dmSQL> SET BLOB BACKUP ON;  
dmSQL> SET BACKUP OFF;
```

データベース・モードを設定する

データベース操作モードを、シングルユーザー・モードかマルチユーザー・モードに設定します。

```
dmSQL> set dbmode single;  
dmSQL> set dbmode multi;
```

拡張子名‘your_own_extension_name’を設定する

システム・ファイル・オブジェクトの拡張子名を設定します。

```
dmSQL> SET EXTNAME TO your_own_extension_name;
```

フラッシュを設定する

ソース・データベースからターゲット・データベースに更新するデータを同調させます。

```
dmSQL> SET FLUSH;
```

SYSINFOクリアを設定する

SYSINFO表の統計値を、0にリセットします。

```
dmSQL> SET SYSINFO CLEAR;
```

4 メニューとツール・バー

この章は、dmSQLのプルダウン・メニューとツール・バーにあるコマンドについて説明します。

4.1 プルダウン・メニュー・コマンド

この節では、dmSQLプルダウン・メニューの各項目について説明します。

データベース・メニュー

接続

リモート・コンピュータのクライアント/サーバ、若しくはローカル・コンピュータのデータベースに接続します。このコマンドを使用すると、**接続**ダイアログボックスが表示されます。

接続ダイアログボックスのオプション

オプション	説明
データベース	接続するデータベースを選択します。
ユーザー名	データベースを使用するユーザー名を入力します。
パスワード	必要な場合、アクセスするデータベースのパスワードを入力します。
ユーザー名の保存	ユーザー名を、データベース・アクセスの初期設定ユーザー名として保存します。
ログイン	データベースにログインします。

切断

現在のデータベース・セッションを切断します。

全て切断

全アクティブ・データベース・セッションを切断します。

接続の表示

現在のセッションで使用されている全接続をリストアップします。

スクリプトの実行

Open Script Fileのダイアログボックスが表示され、スクリプトが実行されます。

OPEN SCRIPT FILEダイアログボックスのオプション

オプション	説明
ファイルの場所	開く Script Fileを配置、選択します。 ドロップダウン・リストボックスは、ファイルを含むフォルダやボリュームを表示します。 その下のボックスに、選択したボリュームやフォルダの一覧が表示されます。
ファイル名	開くファイル名が表示されます。ワイルドカードを含むDOSコマンドを使用します。
ファイルの種類	ファイルの種類を選択します。初期設定は、すべてのファイルです。
開く	選択したファイルを開きます。

コミット

現在のトランザクションの全コマンドをコミットします。

ロールバック

現在のトランザクションのコミットされていない全コマンドを取り消します。

終了

dmSQLを閉じて終了します。

注:

- トランザクション末尾の設定で、自動コミット、アボート、コミットを選択した場合、dmSQLは通知せずに終了します。
- トランザクション末尾の設定で、アスクを選択した場合、現在のトランザクションのコミット/アボート確認のメニューが表示されます。

編集メニュー

元に戻す

前回のテキスト編集操作を元に戻します。

切り取り

ドキュメントからテキストを取り除き、クリップボードに置きます。

注: テキストが選択されていない時、このコマンドは使用できません。

コピー

クリップボードに選択したテキストをコピーします。

注: テキストが選択されていない時、このコマンドは使用できません。

貼り付け

クリップボードから、開いているドキュメントに、コピー又はカットしたテキストを貼り付けます。

注: クリップボードに、カット又はコピーしたテキストが無い場合は、貼り付けコマンドは、利用できません。

削除

アクティブ・コマンド・ラインから選択したテキストを削除します。

コマンド・メニュー

コマンド中止

実行中の全コマンドを取り消します。

注: 現在のコマンドがフェッチ、又はスクリプトの実行の場合、コマンド中止は使用することができません。フェッチ中止あるいはスクリプト中止を利用して下さい。

フェッチ中止

実行の全フェッチ・コマンドを中止することができます。

注: 現在がフェッチでない場合、フェッチ中止を使うことができません。コマンド中止あるいはスクリプト中止を利用して下さい。

スクリプト中止

スクリプトの実行中に、中止します。

注: 現在がスクリプトでない場合、スクリプト中止を使うことができません。コマンド中止あるいはフェッチ中止を利用して下さい。

表の一覧

アクティブ・データベースに含まれる全ての表をリストアップします。

表示メニュー

高速処理

高速検索機能をONにするかOFFにするかを指定します。コマンドがOFFの場合、スクリプトを実行しデータを検索している画面出力関数の結果は、dmSQLの処理中、コマンド入力エリアに表示されます。

水平スクロール・バー

水平スクロール・バーを表示させます。水平スクロール・バーが表示されている場合、メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

垂直スクロールバー

垂直スクロール・バーを表示させます。垂直スクロールバーが表示されている場合、メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

ツール・バー

ツール・バーを表示させます。ツール・バーが表示されている場合、メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

ステータス・バー

ステータス・バーを表示させます。ステータスバーが表示されている時、メニュー項目の横にチェックマークが表示されます。

設定メニュー

自動コミット

各トランザクションを自動的にコミットします。

トランザクション末尾

アプリケーション終了時に、最後のトランザクションのdmSQL処理をどうするか決定します。このコマンドを選択すると、以下のサブ・メニューが表示されます。

サブメニュー コマンド	終了コマンドへのdmSQLの処理
アボート	現在のトランザクションは、アプリケーション終了前に、自動的にアボートされます。
コミット	現在のトランザクションは、アプリケーション終了前に、自動的にコミットされます。
アスク	現在のコマンドラインにプロンプトが表示されます。アボートする場合は「A」、コミットする場合は「C」を入力します。

注: この設定は、自動コミットがONの場合は無視されます。

ログイン・タイムアウト

dmSQLがデータベースにログインを試みる時間を設定します。

ロック・タイムアウト

dmSQLがロックされたデータベース・オブジェクトにアクセスを試みる時間を設定します。

フェッチ

dmSQLがフェッチ・コマンドで検索する行数を設定します。初期設定では、データベースの全行が検索されます。

ライン幅

表示ラインの幅を設定、又は設定をOFFにします。設定をOFFの場合、コマンド入力エリアのライン幅の制限はありません。

BLOB

BLOBデータを表示するためのオプションを設定します:

- **サイズ:** その内容の代わりにBLOBサイズを表示します。
- **ファイル:** ファイルにBLOBの内容を保存します。
- **印刷:** BLOBの内容をdmSQL作業スペースに表示します。

履歴

実行済みと失敗したコマンドを`dmrecord.sql` ファイルに書き込むよう自動的にdmSQLに設定します。

ファイル出力

全dmSQLに選択したテキストに自動的に出力させます。このコマンドを選択すると、名前を付けて保存ダイアログボックスが表示されます。

エコー

コマンドの結果、又はコマンドと結果を表示させます。

WORKDIR

全外部ファイル操作を保存するディレクトリを選択します。

日付

日付データの出力/入力フォーマットを選択します。

時間

時間データの出力/入力フォーマットを選択します。

表示の設定

現在の環境変数の設定をリストアップします。

設定の保存

Windowsホーム・ディレクトリにある`dmsqlenv.ini`ファイルに設定を保存します。

ヘルプ・メニュー

ヘルプ・メニューには、dmSQLオンラインヘルプ、SQLリファレンス、DBMasterのバージョン情報があります。

dmSQLオンラインヘルプ

dmSQLオンラインヘルプを表示します。

SQLリファレンス

SQL文と関数参照編を表示します。

バージョン情報

アプリケーションライセンスと著作権に関する情報を表示します。

4.2 ツール・バー・コマンド

広く使用されるコマンドの多くは、dmSQLツールバーにあるボタンとドロップダウン・リストボックスでも利用可能です。

ボタン	説明	同等コマンド
接続	リモート・コンピュータのクライアント/サーバーのデータベース、又はローカル・コンピュータのシングル・ユーザーのデータベースに接続します。	Database Connect
切断	アクティブ・データベースを切断します。	Database Disconnect
コマンド中止	現在、実行中のコマンドを中止します。	Command Abort Command
フェッチ中止	実行中のフェッチ・コマンドを取り消します。	Command Abort Fetch
履歴(ボタンとドロップダウン・リストボックス)	配置場所を決めて、現在のセッションのコマンドに移動します。	なし

ボタン	説明	同等コマンド
接続ハンドル (ボタンとドロップダウン・リストボックス)	配置場所を決めて、現在のセッションの接続に移動します。	なし

索引

dmSQL

操作, 3-1

概要

dmSQL, 2-1

環境変数

BLOB, 3-19, 3-24

エコー, 3-19, 3-27

時間, 3-19, 3-27

自動コミット, 3-19, 3-21

設定, 3-19

設定の表示, 3-29

設定の保存, 3-30

トランザクション末尾, 3-19, 3-21

日付, 3-19, 3-27

ファイル出力, 3-19, 3-26

フェッチ, 3-19, 3-23

ライン幅, 3-19, 3-24

履歴, 3-19, 3-25

ログイン・タイムアウト, 3-19, 3-22

ロック・タイムアウト, 3-19, 3-23

ワーキング・ディレクトリ, 3-19, 3-

27

高速検索

使う, 3-13

高度な設定コマンド, 3-30

コマンド

BLOBバックアップのモードの設定,
3-30

EXTNAMEのセット, 3-31

SYSINFOクリアのセット, 3-32

コマンド中止, 4-4

スクリプト中止, 4-4

中止, 3-6

ツール・バー, 4-9

データのバックアップ・モードの設
定, 3-31

データベース・モードの設定, 3-31

バックアップのモードの設定, 3-30

表の一覧, 4-4

フェッチ中止, 4-4

ブラウズのモードの設定, 3-30

フラッシュにセット, 3-31

コマンド入力エリアのユーザー設定, 3-
13

コマンド履歴

閲覧, 3-8

コマンド入力エリア, 2-3

スクリプト

実行, 3-4

中止, 3-7

ステータス・バー, 2-4

接続

表示, 3-4

設定

BLOB, 4-6

エコー, 4-6

時間, 4-6

自動コミット, 4-6

設定の保存, 4-6

トランザクション末尾, 4-6

日付, 4-6

表示の設定, 4-6

ファイル出力, 4-6

フェッチ, 4-6

ライン幅, 4-6

履歴, 4-6

ログイン・タイムアウト, 4-6

ロック・タイムアウト, 4-6

ワーキング・ディレクトリ, 4-6

操作

データベース, 3-1

タイトル・バー, 2-2

ツール・バー, 2-3

ツール・バー

メニュー, 4-1

データベース, 3-1

終了, 4-1

全て切断, 3-3

接続, 3-2, 4-1

切断, 3-3

テキスト

切り取り, 3-10

コピー, 3-10

削除, 3-11

表示カラー, 3-15

全て削除, 3-12

全て選択, 3-12

貼り付け, 3-11

編集を元に戻す, 3-12

テキストの編集, 3-10

トランザクション

コミット, 3-5

ロールバック, 3-6

表

一覧, 3-8

表示

高速処理, 4-5

垂直スクロール・バー, 4-5

水平スクロール・バー, 4-5

ステータス・バー, 4-5

ツール・バー, 4-5

表示フォント

変更, 3-13

フェッチ

中止, 3-7

ヘルプ

コマンド, 4-9

バージョン情報, 4-9

編集

切り取り, 4-3

コピー, 4-3

削除, 4-3

貼り付け, 4-3

元に戻す, 4-3

メニュー・コマンド, 4-1

メニュー・バー, 2-2

ユーザー設定

コマンド入力エリア, 3-13

バックグラウンド通知, 3-18

表示フォント, 3-13